NIE特集
Newspaper In Education
毎月第2・4火曜日発行

荒浜小

学校名　宮城県亘理町立荒浜小学校　　校　長　大沼　吉朗
所在地　宮城県亘理町荒浜隅潟67　　児　童　241人
電　話　0223（35）2506

湊神社の言い伝えを探れ！

漁師の遭難 鮫が救う

知り隊

わたしたちの住んでいる宮城県亘理町荒浜は、太平洋に注ぐ阿武隈川の河口近くにあり、潮風が気持ちのいい町です。そんな荒浜の高須賀地区には、湊神社があり、海にまつわる古くからの言い伝えがあります。わたしたちは「鮫を食べたり、捕ったりしてはいけない」と家族に教えられてきました。そこで、古くから伝わる言い伝えについて地域の人々にお話を伺ったり、神社に行ったりして調べてみることにしました。

湊神社で寺嶋さんから漁師遭難の言い伝えを聞く子どもたち

感謝の心 今も生きる

取材したのは、湊神社の近くに住み、歴史に詳しい寺嶋一男さんです。

湊神社は弘和3（1383）年、亘理城主「亘理肥前行胤」が建立した歴史ある神社です。現在は鳥居が建て直され、きれいな石の鳥居になり、石の参道までできています。また、亘理町の文化財に登録されていて、地域の人たちが防火対策や定期的な点検・環境整備をしてくれています。

寺嶋さんの話では「神社には、鮫に乗っている十一面観音がご神体として納められている」のだそうです。そのご神体を参拝できるのは正月などの年に1、2回だけです。

神社の言い伝えとは、こうです。

「むかし、漁に出た漁師たちが魚を追い求めて沖へと出て行った。しかし、その日は大した漁もなく、帰りかけたところ海が荒れて、漁師たちは船から投げ出されてしまった。疲れ果て、気を失ってしまった漁師たちは、ふと気がつくと鮫の背中に乗せられ、湊神社の近くまでたどり着いていた」

漁師たちは、怖さもわすれて鮫に抱き付き、涙を流しながら何度も何度もお礼を言いました。「その時、鮫の背中に金色の観音様の姿が浮かび上がり、その鮫の背中に乗って海へと消えていった」―という言い伝えだったことがわかりました。

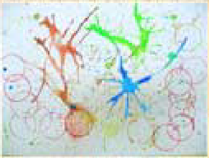
それ以後、湊神社には碑を立て、鮫を水神様として崇め、感謝の気持ちを表しました。それと同時に「高須賀地区の人々は、鮫を食べることも捕ることもしないという誓いを立てました。その習慣が、現在まで続いている」ということです。

◇　◇

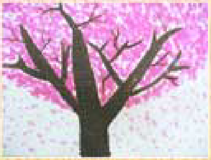
漁の安全と大漁を願って昔から大切にされてきたこの場所と言い伝えを、わたしたちも受け継いで大切にしていきたいと思いました。

文・寺嶋葵、南條有紀、白井啓人（6年）

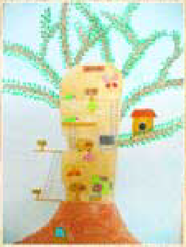
うきうきキャンバス



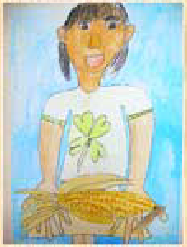
花火が上がったよ
4年・岩佐愛海



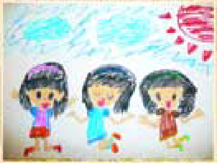
春の桜の木
6年・木村優花



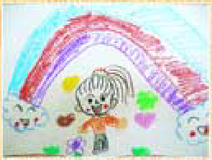
森の中のアパート　5年・大友花



とうもろこしがたくさん収穫　3年・高橋怜



すきなことおしえて
2年・酒井莉那



にじ　たのしい
1年・太田葉月

教え隊　荒浜ぶち合わせ太鼓

迫力の響き勇ましく

今年の運動会で披露された6年生の太鼓演奏（5月23日）

荒浜小では、5年生が地域の方から指導を受ける荒浜ぶち合わせ太鼓の学習があります。港町・荒浜をイメージした躍動感ある太鼓で、わたしたちは、先輩たちの太鼓を打つ勇ましい姿、迫力ある響きを1年生からずっと憧れて見てきました。

毎年12月には「太鼓引き継ぎ式」があり、5年生は初めてみんなの前で太鼓の演奏を披露、6年生は小学校最後の演奏をして、5年生に技を引き継ぎます。受け継いだ後は運動会をはじめ、学校の大きな行事で演奏します。この太鼓を大切にして、後輩に引き継いでいきたいです。

文・渡辺由加里、太田里奈、木村澪楓（6年）

編集後記

「新聞に載る！」　わたしたちが書いた記事が本当に新聞に取り上げられるなんて、まさに「どきどき小学生」でした。どんな記事を書こうかと考えてみると、荒浜には海や川などの自然がいっぱいあるということや、荒浜ぶち合わせ太鼓のことなど、わたしたちの地域、学校には紹介したいことがたくさんあると思いました。

テーマを決めて実際に書き始めてみると、自分たちの伝えたいことを文章に表すことは思っていたよりも難しかったです。でも、実際にその場所に行って調べたり、いろいろな話を聞いたりして自分たちの町の良さをあらためて知ることができたし、楽しく新聞を書くことができました。

〈編集委員〉寺嶋葵、白井啓人、南條有紀、山本さやか、佐藤にな、木村澪楓、渡辺由加里、太田里奈（6年）
題字デザイン　菊地那々美、長谷部麻里（6年）
〈指導教諭〉針生武宏、佐藤由子

言い隊

■ エコ活動を頑張ろう ■

みなさんは、「ポイ捨て」をしている人を見たことはありませんか？「自分くらいいいや」という、ささいな気持ちでやっているのではないでしょうか。そういう軽い気持ちが、川やみんなの遊ぶ場所を汚してしまうのです。その一方、「エコ」という言葉があります。わたしの家では、エコバッグなどを使って買い物に行ったり、飲んだペットボトルを何回も洗って使ったりしています。

こう考えてみると、自分の家でも手軽にできる「エコ活動」がたくさんあります。「えっ、こんなことでいいの？」と思わずに、どんな小さなことでも、自分ができることをしてみてください。

（6年・佐藤にな）

■ 勇気について考えて ■

わたしは今、「勇気」ということについて考えています。新しいことにチャレンジするとき、サッカーでゴールキーパーをやるときに、わたしは勇気が必要でした。その中でも特に「朝会でめあて（生活目標）を発表する時」に勇気が必要でした。みんなの前で、意見を言うということはとても緊張します。でもその時に、この「勇気」がわき出てきて、堂々と発表し、やり終えた後は、とても気持ちがすっきりしたことがあります。

この勇気を行動に移すことは、簡単なようでとても難しいことだと思います。みなさんも一度「勇気」というものについて考えてみるのもよいと思います。

（6年・山本さやか）

次回（７月28日）は月見ケ丘小（塩釜市）と、鳥矢崎小（栗原市）です。

新聞作りに参加する小学校を募集しています。申し込みや問い合わせは河北ＮＩＥ推進事務局022（211）1331へ。